

今月の御教え

人の身が大事か、わが身が大事か、人もわが身もみな人である。

……「天地は語る」第四十一条……

解説

生物はその生命を維持してゆくことが第一であり、それは本能である故に何よりも自分が一番大事になります。しかし社会生活を営む人間は、互いの共存共栄の為には、自分の利害損得ばかりを優先するわけにはいかず、他者の利害損得をも尊重しなければなりません。そこに葛藤が生まれ良い解決策が思い浮かばず、苦悩することになります。そこで、金光大神様はこのような時、「『わが身』も『他人』も、皆、人であり、神の愛しい氏子（我が子）である」との神の視点に立つことをお示し下さっているのです。この神様の目線から、人間関係を眺めると自ずから問題は解決してゆくのでありますが、このような見方は、信心の稽古をしなくては、容易に得られるものではありません。そこで私達信奉者は、共に、日々の信心の稽古に勤しみ、この神様の御思いを感得させて頂くようではありませんか。